平成23年度 京都府立大学地域貢献型特別研究(ACTR)成果

研究代表者: 生命環境科学研究科 教授 氏名: 大場 修

研究担当者:外部分担者・協力者(永光 寛氏(丹波亀山城と城下町を守る会・代表)、中澤 勝氏 (亀岡市教育委員会社会教育課文化財係)ほか)

主な連携機関(所在市町村、機関(部署)名)

京都府亀岡市教育委員会社会教育課

【研究活動の要約】

亀岡は、旧城下町を母体に発展した都市で、旧城下および周辺の街道沿いには伝統的な家並が多く 残る。その家並は、妻入(写真1)と平入の町家(写真2)が混在して独特の景観を形成している。しかし、近年の住宅開発や家屋の建替等が進み、歴史的な町並の姿が失われつつある。

本研究では、亀岡の伝統的な家屋と家並を網羅的に捉え考察すべく、以下の取り組みを行った。

- 1, 旧城下の町家、山陰街道沿いの町家・民家、篠山街道筋の町家・民家、旧城下周辺集落における民家、などについて、築 50 年以前のものを目安に、これらを網羅的にリストアップし、そのデータベースを作成した。あわせて、その現存遺構の分布状況を地図化した(亀岡市教育委員会社会教育課との共同作業)。
- 2, リストアップされた町家遺構について、建築年代や間取りの構成等を中心に聞き取り調査を行った。
- 3, 聞き取り調査を行った家屋の中で、重要遺構について詳細な実測復原調査を行い、その建築的な特徴や地域性等について、建築史的な検討を行った。

本年度の調査は、旧城下町の周辺部である篠山街道沿いの沿道集落(篠・柏原・余部・穴川・吉田・佐伯の各地区)を中心に実施し、でかつ街道筋に位置する地区で聞取り調査 36 件を行った。そのうち7件の家屋については実測復原調査を行った(写真3)。

【研究活動の成果】

聞き取り調査および実測調査より、旧城下町の周辺部である篠山街道沿いの沿道集落には多様な形式の家屋が存在することがわかった。以下にその特徴を述べる。

- 1、沿道集落には妻入と平入民家とが混在し,変化に富む家並景観を構成していることを確認した。
- 2、亀岡の民家は主屋を道路からセットバックさせるという特徴がある。また、主屋と道路の間にできる空間に前庭を設ける家屋と設けない家屋がある。前庭は板塀・生垣・築地塀などで構成されており、景観に多様性を与えていることを明らかにした。
- 3、伝統的な家屋の平面を大別すると、部屋が表から奥へと二室を配する奥行きの浅いプラン(図1)
- と、三室以上配する奥行きの深いプラン(図2)に分けられた。また、ザシキの位置に注目すると、表にザシキを配するプランと奥に配するプランに分けられた。
- 4、城下の町家の平面は、ザシキを奥に配置することから、篠山街道沿いの沿道集落に建ち並ぶ伝統的な家屋は、町家に類するものと、農家と同類の家屋とが混在することが明らかとなった。
- 5、調査を行った妻入民家はすべて奥行きの深いプランであることから、奥行きの深い家屋は平入であっても妻入民家から派生した可能性が考えられた。

【研究成果の還元】

(開催した発表会・成果報告会等の開催日、場所、参加者 等を御記入ください)

平成 24/3/24 亀岡市西町「八幡山鉾保存会」主催の「八幡山鉾ワークショップ」(於:西町会議所)において、大場が「城下町に佇む町家と鉾蔵」と題する基調講演を行い、調査成果を中心に報告し、同市域の歴史的町並みの特徴と価値を訴えた(同町住民、保存会会員等関係者等約50名参加、写真4)。

関連して、「環境共生教育実習 2 」(後期)の実習地に亀岡旧城下を選び、実習生 24 名、チーティングアシスタント 4 名とともに城下の歴史的町並みの実測調査を行った(写真 5)。

【お問い合わせ先】生命環境科学研究科 史的住環境研究室 教授・氏名 大場 修

Tel: 075-703-5419 E-mail: oba@kpu.ac.jp

参考(イメージ図、活動写真等)



写真1 街道筋の妻入民家



写真3 実測調査の様子



写真2 街道筋の平入民家

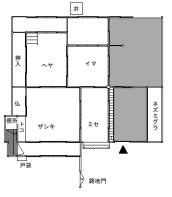


図1奥行の浅いプラン(左) 図2奥行の深い民家平面(右)



写真4 「八幡山鉾ワークショップ」での基調講演



写真1 亀岡市内での「環境共生教育実習2」(後期)の実習風景